

18. 愛知県てんかん治療医療連携協議会 2024 年度報告書

愛知県てんかん治療医療連携協議会 会長

愛知医科大学精神科学 教授

兼本浩祐

名古屋大学大学院医学系研究科脳神経外科 教授

名古屋大学医学部附属病院てんかんセンター センター長

齋藤竜太

本資料作成者 名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 助教 山本啓之

まとめ

2018 年度に開始された愛知県てんかん地域診療連携体制整備事業は、名古屋大学医学部附属病院を拠点機関としながら複数のてんかん診療機関がコンソーシアム型の連携をはかっている。てんかんの知識啓発は Covid-19 による制限中に行ってきた講習会の現地+web のハイブリッド開催のノウハウを生かしながら多くの参加者を得ている。引き続き、てんかんの診療連携、啓発をはかっていく。

1. 概要

愛知県により 2018 年 11 月 30 日に名古屋大学医学部附属病院が拠点機関に指定された。愛知県にはてんかん診療を積極的に行っている医療機関が多くあり、単一の医療機関を拠点とするのは実情に合わないと考えられた。そのため、協議会には幅広く県内の医療機関の医師が参加し、円環状につながったコンソーシアム型の診療連携体制が構築された。(下図)。適宜委員を任命しさらなる診療連携を図っている。

2. 事業

1) 協議会

2023 年 12 月 9 日に第 7 回愛知県てんかん治療医療連携協議会をハイブリッド会議形式で開催した。2023 年度の活動報告、2024 年度の活動予定などが確認された。

協議会の委員は以下の通りである。

会長 兼本浩祐 愛知医科大学精神科

1. 拠点機関

齊藤竜太	名古屋大学脳神経外科
勝野雅央	名古屋大学脳神経内科
夏目淳	名古屋大学小児科
池田匡志	名古屋大学精神科
石崎友崇	名古屋大学脳神経外科
鈴木将司	名古屋大学脳神経内科
加藤秀一	名古屋大学精神科・親と子どもの心療科
山本啓之	名古屋大学小児科 (コーディネーター)
伊藤祐史	名古屋大学小児科 (コーディネーター)

2. てんかん治療を専門的に行っている医師

兼本浩祐	愛知医科大学精神科
若林俊彦	名古屋ガーデンクリニック
福智寿彦	すずかけクリニック
東英樹	名古屋市立大学精神科
齋藤伸治	名古屋市立大学小児科
奥村彰久	愛知医科大学小児科
石原尚子	藤田医科大学小児科
前澤聡	名古屋医療センター脳神経外科
岡田久	森川クリニック
森川建基	森川クリニック
寶珠山稔	名古屋大学医学部保健学科
廣瀬雄一	藤田医科大学医学部脳神経外科学
三浦清邦	愛知県医療療育総合センター中央病院小児神経科



麻生幸三郎 信愛医療療育センター
 川上治 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院脳神経内科
 藤谷繁 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院脳神経外科
 糸見和也 あいち小児保健医療総合センター神経内科

3. 保健医療行政を担当する県職員
 こころの健康推進室長
4. 精神保健福祉センター、保健所の代表者
 精神保健福祉センター所長
 瀬戸市保健所長
5. てんかん患者及びその家族の代表者
 前田孝志 日本てんかん協会愛知県支部
 患者ご本人

2) 医療者の研修事業

2025年1月11日に「医療者のためのてんかん講習会」を、ハイブリッド開催した。

医療者のためのてんかん講習会

日時：2025年1月11日 13:00-15:30
 開催場所：国立病院機構名古屋医療センター
 ハイブリッド開催
 企画者：前澤聡（名古屋医療センター脳神経外科）
 プログラム

総合司会：前澤聡 先生（国立病院機構名古屋医療センター 手術部長・脳神経外科医長）

13:00～13:05 開会のあいさつ

齋藤竜太 先生（名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科学 教授）

13:05～13:35 講演1（講演25分、質疑応答5分）

座長：山本啓之 先生（名古屋大学医学部附属病院 小児科 助教）

「こどものてんかんの最新トピックス」

夏目淳 先生（名古屋大学大学院医学系研究科 障害児(者)医療学寄附講座 教授）

13:35～14:05 講演2（講演25分、質疑応答5分）

座長：兼本浩祐 先生（愛知医科大学精神神経科 名誉教授・愛知県てんかん治療医療連携協議会 会長）

「てんかんと就労や啓発など社会的な取り組みについて」

福智寿彦 先生（医療法人福智会 すずかけクリニック 院長）

14:15～14:45 講演3（講演25分、質疑応答5分）

座長：前澤聡 先生（国立病院機構名古屋医療センター 手術部長・脳神経外科医長）

「てんかん治療の新時代：名大てんかんセンターの外科治療戦略」

石崎友崇 先生（名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科

名古屋大学医学部附属病院 てんかんセンター 脳とこころの研究センター病院助教）

14:45～15:15 講演4（講演25分、質疑応答5分）

座長：小林麗 先生（国立病院機構名古屋医療センター 教育研修部長・神経内科医長）

「てんかんの地域医療について一看護師の立場から」

原稔枝 先生（国立精神・神経医療研究センター病院 看護師長）

15:15～15:20 閉会のあいさつ

兼本浩祐 先生（愛知医科大学精神神経科 名誉教授・愛知県てんかん治療医療連携協議会 会長）

3) 啓発のための市民公開講座

・市民公開講座

「てんかん市民公開講座」

日程：2025年2月11日（祝）

時間：14:00-16:30



場所：あいち小児保健医療総合センター
 プログラム
 座長：糸見 和也 先生（あいち小児保健医療総合センター
 診療支援部長/神経内科医長）
 14：05-14：30 講演①
 久保田 哲夫 先生（安城更生病院 小児医療センター長）
 「てんかんの基礎知識」
 14：35-15：00 講演②
 川口 将広 先生（あいち小児保健医療総合センター
 神経内科医長）
 「小児のけいれん・てんかん-最近の話題-」
 15：10-15：35 講演③
 跡部 真人 先生（豊川さくら病院 児童精神科医長）
 「発達障害のあるお子さんのてんかんと生活」
 15：40-16：15 講演④
 大野 敦子 先生（豊田市子ども発達センターのぞみ診療所
 副診療所長）
 「医療的ケアのあるお子さんのてんかん」
 16：20-16：30 ご家族とのフリーディスカッション

2024年度 愛知県てんかん治療医療連携協議会
「てんかん市民公開講座」
 開催日時 2025年2月1日(火・祝) 14:00-16:30
 開催場所 あいち小児保健医療総合センター 大会議室(地下1階) 愛知県大府市森岡町七丁目42番地
 参加費無料 事前登録制
 定員70名(現地開催のみ) 事前申し込み締め切り 2月4日(火)
 プログラム
 14:00~14:05 開会のことば 糸見和也先生
 第1部 座長 あいち小児保健医療総合センター 総合診療科部長 鈴木善正先生
 14:05~14:30 講演1 てんかんの基礎知識 安城更生病院 小児医療センター長 久保田哲夫先生
 14:35~15:00 講演2 小児のけいれん・てんかん-最近の話題- あいち小児保健医療総合センター 神経内科医長 川口将広先生
 15:00~15:10 休憩
 第2部 座長 あいち小児保健医療総合センター 神経内科部長 青木達介先生
 15:10~15:35 講演3 発達障害のあるお子さんのてんかんと生活 豊川さくら病院 児童精神科部長 跡部真人先生
 15:40~16:15 講演4 医療的ケアのあるお子さんのてんかん 豊田市子ども発達センターのぞみ診療所 副診療所長 大野敦子先生
 16:20~16:30 ご家族とのフリーディスカッション
 16:30 閉会のことば 糸見和也先生
 お申し込み方法
 ①か②のいずれかの方法で、必要事項をご記入の上、お申し込みください。
 ③googleフォームによる事前申込制
 ④QRコードによる事前申込制
 ⑤お申し込みの必要事項
 ⑥お申し込みの必要事項
 ⑦お申し込みの必要事項
 ⑧お申し込みの必要事項
 ⑨お申し込みの必要事項
 ⑩お申し込みの必要事項
 ⑪お申し込みの必要事項
 ⑫お申し込みの必要事項
 ⑬お申し込みの必要事項
 ⑭お申し込みの必要事項
 ⑮お申し込みの必要事項
 ⑯お申し込みの必要事項
 ⑰お申し込みの必要事項
 ⑱お申し込みの必要事項
 ⑲お申し込みの必要事項
 ⑳お申し込みの必要事項
 ㉑お申し込みの必要事項
 ㉒お申し込みの必要事項
 ㉓お申し込みの必要事項
 ㉔お申し込みの必要事項
 ㉕お申し込みの必要事項
 ㉖お申し込みの必要事項
 ㉗お申し込みの必要事項
 ㉘お申し込みの必要事項
 ㉙お申し込みの必要事項
 ㉚お申し込みの必要事項
 ㉛お申し込みの必要事項
 ㉜お申し込みの必要事項
 ㉝お申し込みの必要事項
 ㉞お申し込みの必要事項
 ㉟お申し込みの必要事項
 ㊱お申し込みの必要事項
 ㊲お申し込みの必要事項
 ㊳お申し込みの必要事項
 ㊴お申し込みの必要事項
 ㊵お申し込みの必要事項
 ㊶お申し込みの必要事項
 ㊷お申し込みの必要事項
 ㊸お申し込みの必要事項
 ㊹お申し込みの必要事項
 ㊺お申し込みの必要事項
 ㊻お申し込みの必要事項
 ㊼お申し込みの必要事項
 ㊽お申し込みの必要事項
 ㊾お申し込みの必要事項
 ㊿お申し込みの必要事項
 運営事務局 愛知県てんかん治療医療連携協議会 名古屋大学医学部附属病院てんかんセンター 〒466-8550 名古屋市中区区歌敷町165 TEL 052-744-2394

4) 拠点機関活動

脳神経外科、脳神経内科、精神科、小児科の医師、看護師、薬剤師、検査技師、精神保健福祉士、リハビリテーション部門などの多職種による症例検討会を毎月開催し、てんかん患者さんがより良い生活ができるよう治療方針のみならず、福祉サービスの利用など多方面での支援方法を検討している。その中でも今年度から病院の医療ソーシャルワーカーが毎回参加することとなった。症例検討会を通じて拠点機関内の医療者にむけての知識啓発を継続している。

3. 成果と課題

本事業は都道府県単位で一つの拠点機関を指定することが前提とされている。しかし、実情として複数の医療機関が拠点としててんかん診療を行っている地域では単一の拠点機関を指定することが困難であることが考えられる。愛知県でも複数の医療機関がてんかん診療を積極的に行っており、それぞれの機関により得意としている分野は異なっている。そのため複数の医療機関がコンソーシアムとして拠点を形成することで有機的に連携し相補的な拠点形成をすることが必要であると考えられた。そのため、協議会には幅広い医療機関から参加し、多施設が横に連携して県内の各地域の患者さんがバランスよくてんかん診療を受けられる体制を目指している。

てんかんは有病率が高く、生涯にわたって罹患しうる疾患である。また症状も千差万別であり、当然のことであるが拠点機関にすべてのてんかん患者を集約できるものではない。複数の医療機関が横に連携した診療体制を構築することを、県内の患者、家族、医療機関のスタッフに広報し、病状に応じた適切な診療を受けられるようにすることが必要である。またてんかんの初期診療から二次・三次診療を担う県内の医療機関について情報共有し、診療レベルの向上、診療ネットワークの形成、診療マップの提供をしていけるように活動を続けることが必要である。そのため市民公開講座、医療者のための講習会を開催し知識、認識の共有に努めてきた。

今年度は市民公開講座は現地での開催とした。それにより患者さんご本人およびご家族、関係者とのフリーディスカッションの時間を設けることができ、有意義な交流をはかることができた。医療者向けの講習会ではハイブリッド開催とすることで、web参加で参加が可能な開催形式とした。これにより、さらに多くの方への知識啓発ができたと考えている。

今後の課題としては、医療機関の広域的な偏在の問題がある。本事業は都道府県単位となっているが、実際の医療圏は都道府県を超えて連携されている。愛知県では県庁所在地である名古屋市に人口の重心があるが、名古屋市から鉄道で30分の圏内には人口30万人超の他県の都市が複数存在する。これらの県ではてんかん拠点が指定されておらず、愛知県および静岡県へ紹介されている現状がある。今後は県の単位を超えた連携も視野に入れていく必要があるが、県の事業となっており県外での活動が規定されていない。これらは全国拠点との連携を通じて解決を模索していきたい。